

## Ninohe City Fair 2017 開催

蟬本 睦

### <小さな市、二戸市のニューヨークでの挑戦>

10月20日から22日にかけて、ニューヨーク市において、Ninohe City Fair 2017が開催されました。みなさまは二戸（にのへ）市のことはご存知でしょうか？岩手県二戸市は岩手県最北部、青森県に接するわずか人口3万人の市ですが、その小さな町が、ニューヨークでのプロモーションなどを通じて、二戸ブランドの世界への発信に取り組んでいます。

### <漆の里、浄法寺>

「漆」といえば、日本を代表する工芸の一つ、最近では12,600年前の遺跡から漆の木が発見され、工芸としては9,000年前の衣服から漆の加工が発見されています。そんな「漆」ですが、じつは国産漆の約7割がこの人口3万人の二戸市、なかでも人口わずか5千人の浄法寺町から産出されています。「漆」は漆器に使用されるだけでなく、天然の接着剤であることはあまり知られていません。実は金閣寺や中尊寺金色堂の金箔は浄法寺の漆で貼られており、日光東照宮の修復にも浄法寺漆が活用されています。

### <世界チャンピオンの南部美人>

今年7月、ロンドンで開催された世界的なワイン品評会、インターナショナル・ワイン・チャレンジ（IWC）において、日本酒部門の最優秀賞「チャンピオン・サケ」に二戸市の蔵元、南部美人の純米酒「南部美人特別純米」が選ばれました。南部美人は地元の水、地元の酒米を使って作られた、まさにメイド・イン・二戸のお酒です。

### <地元の誇りをひっさげて>

さて、アメリカ、とりわけニューヨークは、トレンドやビジネスが生まれる場所、新しいものだけではなく、本物を見極め、飛びつくという習性があると筆者は考えます。

自治体のプロモーションは地元への配慮からか、多くの商品を持ち込み、雑多な印象を与えてしまうことがあると思います。一方で二戸市は、日本一、世界一ともいえる、漆と日本酒に的を絞ってPRを行っています。小さい町ならではの、思い切った戦略だと思えます。



漆塗りの実演を行う浄法寺の職人

### <世界最大級の美術館の舞台に>

さて、二戸市は、10月20日、21日、日本クラブにおいて浄法寺漆を使った漆器の展示会を主催、21日には漆と漆器について学ぶレクチャーを開催。同日、午後6時から、漆器と南部美人、また二戸市のシェフをフィーチャーしたイベントをローワーイーストサイドで開催しました。極めつきは、ニューヨークでもっとも有名な、世界最大級の美術館（名前の使用には厳格な基準があるため、このような書き方ですみません）が開催したレクチャーにおいて、二戸市が派遣したスピーカーが舞台に上がり、約400名の聴衆に向けて漆の魅力について紹介をしたことです。20分の枠とはいえ、このような美術館において、存分に漆のことを紹介する機会がもてたことは、大きな成果であったと思えます。

このように、人口3万人の小さな町もニューヨークで大きな挑戦を行っています。広島を始め、多くの地域もぜひ挑戦して欲しいと思います。